

『たすけ』の気まぐれコラム（第三回）

こんにちは『たすけ』です。今回は結露軽減策のお話です。

断熱リフォーム(内窓設置など)をしても**結露が減らない、むしろ増えてしまったという場合は、高湿度状態にある**ということは前回にお話しました。

したがって、この状態を解消すれば結露が軽減されるということです。それでは湿度を低下させる方法を探っていきましょう。

まずは水蒸気発生源を排除しましょう。発生源には次のものがあげられます。

- ①人間の呼気・汗
- ②炊事・洗濯・入浴
- ③化石燃料燃焼機器(ガス・石油暖房機器、ガスレンジ、屋内設置ガス・石油給湯器など)
- ④洗濯物の室内干し
- ⑤熱帯魚飼育、観葉植物育成

①と②は生活の上で無くてはならないものですので、削減は難しそうですが、食器洗いは**食洗器を使用する**(水を流しっぱなしにしない)、**入浴時はドアを開け放たない、入浴後は換気扇を稼働させる**などで、室内への水蒸気放出をかなり防ぐことができます。

③が重要ポイントで、室内空気環境保持の為に**対策したい部分でもあります**。余談ですが室内燃焼機器は、室内燃焼により水蒸気供給以外に**酸素消費、二酸化炭素・一酸化炭素・窒素酸化物排出と良いことが一つもありません**。特に幼児がいらっしゃる家庭では極力排除したいものです。断熱リフォームにより暖房効果が上がりますから、**暖房は極力エアコンなどの非燃焼機器に**代えましょう。寒冷地などでどうしても燃焼機器が欠かせない場合は、煙突による外気導入・排気室外放出ができるFF式機器に取替えます。

レンジはIHクッキングヒーターがお勧めです。室内燃焼しないことに加え、レンジファンのベトベト汚れやレンジトップの面倒な清掃から解放されます。レンジファンの汚れはガス燃焼による激しい上昇気流によるものであることはあまり知られていませんが、IHクッキングヒーターではこの上昇気流が発生しないことから油汚れが軽減できるのです。

発生してしまった余分な水蒸気は速やかに排出することが必要です。換気扇を稼働させるのですが、冷暖房熱も捨てることとなりますので**『熱交換式換気扇』に取り替えることをお勧め**します。

これは排気熱と吸気熱を熱交換(熱回収)しながら換気してくれるもので、**湿度センサー付を選択すれば完璧**です。

次回からは『遮熱』に関するお話です。お楽しみに。

